

# 広陵町教育委員会だより

令和3年度 1月号 令和4年1月7日発行

広陵町教育委員会  
北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



新しき 年の初めに 豊の年  
しるすとならし 雪の降れるは

1月の万葉集 巻17-3925 葛井連諸会  
(新しい年の初めにこんなに雪が降った、今年は豊かな年になるということの印であろう。)

## 壬寅(みずのえとら)の今年を輝かせたい!

今年の正月三が日は比較的穏やかで暖かな日々であったと思います。保護者や地域の皆様には、ご家族おそろいで、輝かしい令和4年の新春を迎えられたことと思います。

旧年中は、広陵町教育委員会の諸事業全般にわたり、多大なるご理解とご協力、そしてご支援を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。今年も昨年にも増してご支援ご協力をよろしく願っています。

今年も千支で言えば壬寅(みずのえとら)で、「壬」は十千の9番目、生命の循環で言えば終わりの位置に近く、次の生命を育む準備の時期を表しています。また、「壬」は「みずのえ」、陰陽五行説では「水の兄」と表記し、これは「水の陽」を意味します。ちなみに水の弟もあります。「癸」は「みずのと」で「水の弟」と表記し、「水の陰」となるようです。五行の「水」は静寂、堅守、停滞、冬の象徴であり、「陽」は激しいとか大きいといった意味になるようです。要するに「壬」は、厳冬、静謐、沈滞といったことを表しています。



**寅** 「寅」の文字の意味は「蟻(ミミズ)」に通じており、春に植物が発芽する際に豊穡を助けるミミズが土の中で動きはじめ、芽吹きが始まった状態の中で暖かくなって虫たちが動き出すという、春の胎動を感じさせるイメージです。また、寅を動物の虎に例えると柔軟で、強く、気高く、たくましいとされています。

これらを合わせ考えると、令和4年(2022年)は厳しい冬を超えて、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれることを表していて、新しく立ち上がることに向けて動き出す段階に入る1年になるということです。

昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症が世界のあらゆる社会経済活動を一変させました。昨年暮れには何とか収束に向かっていたが、今また第6波の兆しが見える状況です。

そのような中でも、厳しい時を経て、春の芽吹きとともに輝かしい一年にしたいものです。

さて、年の始めにあたり、お正月の家族団らんの中で、お子様との会話で「今年はどうな年にしたいの」「今年はどうなことにがんばるの」など新たな気持ちで、今年めあてや抱負を話されたことと思います。ご家族の温かい励ましを受けて子どもた

ちは今年の決意を新たにされたことだと思います。これからの学校生活・園生活の中で決意しためあてに向けて、一日一日を大切に努力を積み重ねてくれることを心から願っています。

ところで、1月は別名睦月といいますが、これは「新しい年を迎え、家族が和やかに睦まじく楽しい日々を送る」ことからこのように言われています。家族のみならず、学校園の教職員や地域の方々子どもたちのために、家庭、地域、学校園が一体となって、仲睦まじく協力し合える月に、そして1年にしていきたいと願っています。保護者・地域の皆様には本年もこれまで同様、相変わらぬご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 教育委員会の取組

### 市町村対抗子ども駅伝大会の選考会を行いました!

昨年度は、市町村対抗子ども駅伝大会も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止されましたが、今年度は3月5日(土)に榎原運動公園で開催されるため、昨年の12月19日(日)にグリーンセンター広陵でその選考会を開催しました。

町内小学5・6年生で男子が11名、女子が12名参加のもと、1周500mのコースを4周しての選考レースで男女各上位4位までの計8名を選考します。



開会式では、スポーツ協会の増田会長、山村町長から、参加した子どもたちに選考会に臨む心構えと持っている力を精一杯発揮してほしいという熱いエールなど、力強い激励のあいさつをしていただきました。

その後、女子の部の号砲を山村町長にいただき、男子の号砲を私がさせていただきました。

参加した子どもたちは一人一人が持っている力を全面に出して懸命に走っていました。その結果、男女各上位4位までの4名ずつを選出しました。選出された選手の皆さんは、広陵町の代表として1~2月の2か月間、思いきり練習して本番では必ず上位入賞を果たしてほしいと思います。

裏面へ

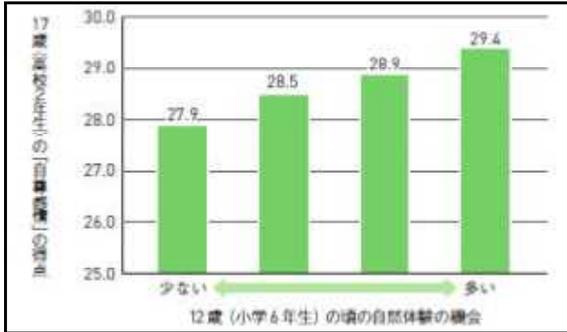
## 体験活動は子どもの成長にとって大切な要素！

文部科学省は、平成13年に出生した子どもとその保護者を18年間追跡した調査データを用いて、時系列的な観点から様々な体験活動がその後の成長に及ぼす影響を分析し、その関連性について公表しました。これまで、感覚的に体験活動が子どもたちの成長に良い影響を与えるであろうと考えられていたことが、この調査研究(21世紀出生児縦断調査〔平成13年出生児〕)によって明らかにされました。

出典：令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究報告より

### 「体験活動」の影響

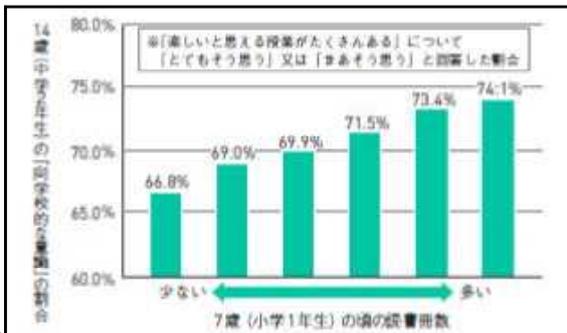
体験を多くすることによる影響を自然体験(キャンプ、登山、川遊び、ウインター



スポーツなど)、社会体験(農業体験、職業体験、ボランティア)、文化的体験(動植物園・博物館・美術館見学、音楽・演劇鑑賞、スポーツ観戦など)に分けて分析したところ、自然体験では主に自尊感情や外向性、社会体験では小中高校生の時期の向学校的な意識(勉強・授業が楽しい)、文化的体験はすべての意識に良い影響が見られることがわかった。

### 「読書」の影響

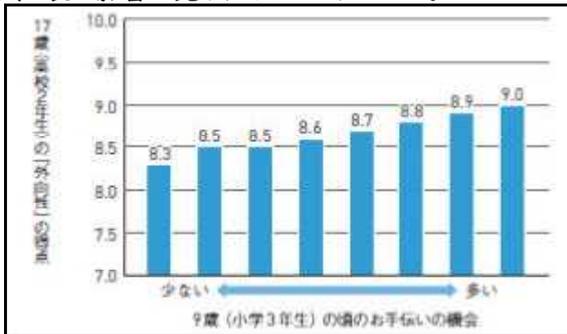
読書を多くすることによる影響を分析したところ、新奇性追求(新しいことに興味をもつ



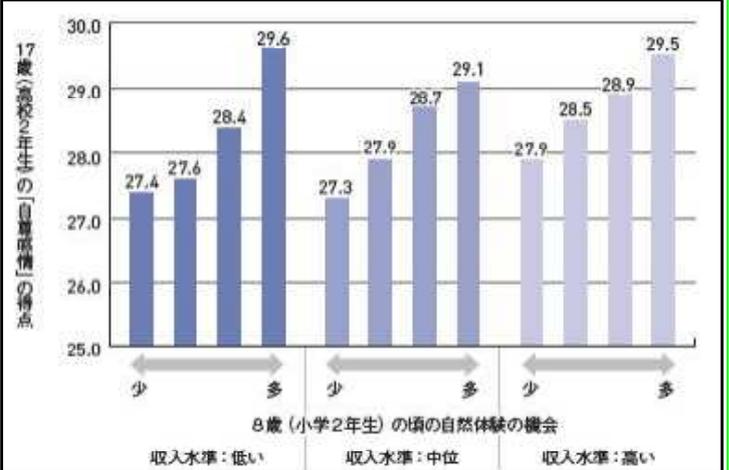
など)や感情調整(自分の感情を調整するなど)、肯定的な未来志向(将来に対して前向きなど)といった精神的な回復力や小中高校生の時期の向学校的な意識に良い影響が見られることがわかった。

### 「お手伝い」の影響

お手伝いを多くすることによる影響を分析したところ、自尊感情や外向性をはじめ



精神的な回復力、向学校的な意識など、すべての意識に良い影響が見られることがわかった。



### 世帯収入と8歳頃の自然体験の機会、17歳時点の自尊感情の関係

子どもの成長には家庭環境の要因も影響することが考えられることから、子どもが置かれている環境(家族構成、収入、住環境、親のしつけ)を考慮して体験の影響を分析した結果、小学校の頃に体験活動などをよくしていると、家庭の環境に関わらず、その後の成長に良い影響が見られることがわかった。

特に世帯収入の水準別に分けて体験と意識との関係性を分析したところ、上図に示したように収入の水準が相対的に低い家庭にある子どもであっても、例えば、自然体験の機会に恵まれていると、家庭の経済状況に左右されることなく、その後の成長に良い影響が見られることがわかった。

### 研究結果の概要

- 1 小学校の頃に体験活動(自然体験、社会体験、文化的体験)や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情(自分に対して肯定的、自分に満足しているなど)や外向性(自分を活発だと思う)、精神的な回復力(新しいことに興味をもつ、自分の感情を調整する、将来に対して前向きなど)といった項目の得点が高くなる傾向が見られた。
- 2 小学生の頃に異年齢(年上、年下)の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も上記と同様の傾向が見られた。
- 3 経験した内容(体験活動や読書、遊び、お手伝い)によって影響が見られる意識や時期が異なることから、一つの経験だけでなく多様な経験をすることが必要であるということも見えてきた。
- 4 小学校の頃に体験活動などをよくしていると、家庭の環境にかかわらず、高校生のときに自尊感情や外向性、精神的な回復力といった項目の得点が高くなる傾向が見られた。

このことから、子どもが置かれている環境に左右されることなく、体験の機会を十分に得られるように、家庭ではお手伝いや読書の習慣を身に付けるようにする、地域では放課後などに地域の大人と遊びを通じて交流する機会を設ける、学校では地域と連携しつつ体験活動の充実を図るなど、地域・学校・家庭が協働し、「多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境づくり」を進めることがよりよい社会づくりにつながると考えられます。子どもの頃に様々な体験をさせましょう。